

非漢字系学習者のための入門期における漢字学習指導の一考察

アルド トリーニ*

キーワード： 漢字教育，パターン認識，表記体系，練習問題

要旨

日本語教育において概して軽視されがちな漢字教育に関連する二つの問題を取り扱っている。一つは漢字の識別に関する問題で、もう一つは漢字の書写に関する問題である。両問題とも初級学習者（時々中級学習者）のレベルに当たる。第一の問題は正しい組織化されたモデルに従って漢字（特に複雑な漢字）を読み取ることがむずかしい。第二の問題は漢字を正しい大きさに正確に書写することができない。

以上の問題の原因は、現在存在する二つの主な文字体系（アルファベット＝単音文字体系と漢字＝表意文字体系）の相違にあると考えられる。この二つの文字体系の機能的な分析をし、これらの相違点がどうして、漢字習得の過程に多くの影響を与えるかということ进行を考察する。以上触れたいくつかの点を考えると、非漢字系学習者にとって連続的、線的、系列的、一次元的、分析的な文字（アルファベット）から、包括的、平面的、二次元的、複雑な文字（漢字）を解読するプロセスを再組織するのがむずかしいのは明白になるだろう。漢字学習過程の上で具体的に、非漢字系の学習者には、複雑な漢字を読む手助けになるパターン練習としての予備訓練が必要だと思ふ。

最後に以上論じた問題点に対応する練習問題のいくつかの実例を提出する。

1. 問題の定義

日本語教育において概して軽視されがちな問題にしばしば遭遇する。そして、それは一般的な問題として取り扱われる傾向がある。又、時間と練習が解決してくれると思われている。この問題というのはよくくりかえされる二つの現象のことである。両者は関連があり、日本語教師ならだれでも経験して知っている問題である。一つは漢字の識別に関する問題で、もう一つは漢字の書写の問題である。

- 1) 初級学習者は正しい組織化されたモデルに従って漢字（特に複雑な漢字）を読み取ったり、類似の漢字や共通の構成要素を含む漢字を識別したりするのに困難を感じる。つまり、構成

* Aldo Tollini: パヴィア大学 (University of Pavia, Italy) 政治学部日本語科准教授。

要素に基づいて漢字の見方を組織化するのがむずかしいということであり、「犬」と「太」、
「勸」と「観」などを見分けるのがむずかしいということである。

2) 初級学習者(時々中級学習者も)は漢字を正しい大きさに正確に書写することができない。

一番目の問題は読解力に影響を与え又しばしば漢字辞典を使用した漢字の検索に悪い影響をおよぼす。二番目の問題は学習者の書いた文字が読めないことと関係がある。いずれにせよ、この二つの問題は最悪の場合文書の情報伝達に支障をきたすこともあり得る。

そして、残念ながらたいてい無視されるか目的に合ったストラテジーもとられず軽くあつかわれる。要するにこのようなタイプの間違いの訂正は学習者の熱意と勤にゆだねられる場合がほとんどである。しかし、適切な訂正をしなかった学生は以上の障害を乗り越えるのに長い間苦勞するのである。

前述の問題が初級学習者が外国語の音を区別したり発音したりするときに困難を感じることに並行しているのは興味深い。母語と異なる文字体系同様、母語と異なる音韻体系を学習するのがむずかしいのは既存知識の欠如に起因する。音声器官と音を区別する脳の働き、他方運動感覚と文字を識別する脳の働きが未知の音韻体系や文字体系に作動するよう訓練されていないし、又習慣づけられていないのである。

現在、存在する二つの主な文字体系(アルファベット=単音文字体系と漢字=表意文字体系)が形の上からも機能の上からも違いが大きいと考えるならば、当然、非漢字系(アルファベット系)の学習者には漢字を読む手助けとなるパターンプラクティスとしての予備訓練が必要である。

アルファベット表記の中で、ただ単に字形が違うという問題ではない。文字の価値とその性格や表音文字と表意文字を処理し解読する私達の脳の働き以外に文字の構成原理も違うのである。従って、漢字習得に先行し、ゆるぎない基礎となるための予備のストラテジーを見つけることが差し迫った課題である。

それにはまず漢字習得を妨げる要因を究明することから始めなければならない。これらの要因は学習者の母語の表記(アルファベット)と学習の対象となる言語の表記(漢字)との著しい相違点に求められるだろう。次に前に触れた問題に関連して二つの表記の主な相違点をいくつかのべてみよう。

1-1. 相違点

1-1-1. 低変異と高変異

習得のむずかしさは二つの文字体系を最も際立たせている性格的特徴に起因する。アルファベット体系は少数の要素で構成されている。イタリア語は21文字、英語は26文字からなる。これらの文字が連結してより複雑な単位を形成する。一方、漢字体系は最小単位に分解しにくい非常に多く(数千)の異なる文字で構成されている。前者(アルファベット文字体系)は低変異で繰り返

しが多く、後者は高変異で繰り返しが少ない。

また、アルファベットが線上に展開していくのに対して、漢字は長方形の空間を占める。前者は一次元的な線状性で後者は二次元的な空間性である。したがって、アルファベット体系の場合、学習者は語を最小単位に分解したり、組み合わせたりしながら、分析的に解読をしなければならない。

それに対して漢字の場合、解読の過程は文字の全体処理で行われる。換言すれば、漢字を形成する点や線は個々の独立した有意味の要素としてではなく、占める位置の相互関係によって処理される。

以上簡単に述べた相違点から、漢字習得の過程にいかに関与するかの理解ができたであろう。もう一つ付け加えておきたいことは、当然表意文字のような高変異で繰り返しの少ない文字体系は習得が困難で覚えにくく、一般に扱いにくいということである。その反面、識別度は高く、正確であまいではないという長所もある。

アルファベットに比べて、漢字は集約性(複雑さ以外に)が高いので、よくささいな誤りや見落としを犯す、つまり、ある文字を別の文字と見間違ひやすいという点にも注意したい。言い換えれば、漢字を認知するための労力は特に慣れていない者には多大で、それに要求される注意力も多大である。

事実、漢字は意味の弁別を基本的には視覚に担う。つまり、漢字の字形が意味の第一次的なものなのである。

1-1-2. 一次元性と二次元性

前に触れた次元性は習得上問題となるもう一つの重要な特徴である。線状性に対応する空間性というのは個々の漢字が要素連結としてではなく、同一単位として認知されるということである。つまり、漢字の次元は二値の座標軸の上を動くということである。部首を頼りに漢字を検索する人ならよく知っているように漢字には上下左右の次元がある。この特徴は大部分の漢字が四方形、又は長方形の理想の領域内を互いに平面を単位に動く複数の要素で構成されていることからくる。

同じ構成要素の互いの位置を変えることによって全く意味の異なる新しい漢字を創造することができる。たとえば、構成要素「口」からなる「吟」と「含」のように。従って、空間での位置関係が意味上重要である。それに対して、アルファベットは線上の位置関係が意味決定に重要なものである。意味の弁別は「 pO_a 」と「 $^bO^a$ 」ではなく「DOG」と「GOD」のように横軸の上だけを動く文字の前後関係によってなされる。二次元性の文字は一次元性のものより変異体の数が多くなる。事実、次元が一つ増えることでより多数の異なる文字を創ることができるという非常に大きな長所を持っている。そうでなければ、どうして類似やあいまいさの大きな問題もなく、万に

も及ぶ漢字を創作することができたであろうか。

1-2. 漢字のシンタックス

漢字を認知し再生し、記憶するプロセスを容易にする“graphic memory”(表記記憶)というものが存在するであろうか。もしあるとすれば、どのように作動するのだろうか。ただ単に表記したものを覚えることができる記憶を言っているのではない。いくつかの(構成)要素を互いに連関させたり、正誤の判断を下したりする無意識的に作られた規則のことである。

たとえば、漢字を全く知らない人が任意に創った漢字を中国人か日本人に見せたら、大抵の人は割合簡単にそれが存在するが知らない漢字(たとえばまれな漢字)ではなく、非漢字(non-kanji)だということを認知するであろう。しかし、たぶんその人は何を基準にそれが漢字ではないと判断することができたのかは説明できないであろう。そして又、漢字を母語とする人ならだれでも知らないどの漢字も完璧に正しい大きさに正確に書写することができる。

個々の漢字を習得した結果、身に付ける規則のような漢字の「一致性」(conformity)を決める基準といったものが当然あるように思われる。たとえば、点と線(strokes)、点と線の集合、「一致性」の部分とそうでない部分といったような。また、それらとの相互関係も「一致性」であるか否かであるかも知れない。

漢字にはこの「一致性」の規準に基づいた“internal coherence”(内部統合)がある。この規準は大部分が漢字の字形構成原理や長い歴史の中で漢字が簡略化され標準化されたその基準に由来する。

たとえば、常に上部や左部に位置する点や線、点や線の集合がある。またそれが上部に位置するときと下部やその他に位置するときでは形の異なるものがある(仁、介、仄の人偏)。

1-3. 指導法

1-3-1. 指導法の考察

指導法の立ち場から見ると前述の考察はかなり重要な位置を占める。まず第一に、非漢字系学習者にとって連続的、線的、系列的、一次元的、分析的な文字(アルファベット)から、包括的、平面的、二次元的、複雑な文字(漢字)を解読するプロセスを再組織するのがむずかしいのは明白である。問題は学習者が当然アルファベット文字体系で得た(解読の)方法に従って漢字を読もうとするところにある。その結果漢字を視覚的に処理することができないのである。

アルファベットの処理は論理的に有意味の単位を構成する、繰り返しの多い少数の要素の分析に基づく。それに対して、漢字には視覚的、包括的なアプローチが要求される。学習者は二文字体系の違いは理解し、又別のアプローチが必要であることも自覚しているのではあるが、一人で有効的に問題に取り組むための道具を持っていないのである。このことは正しい漢字の学習方法

を導入の段階で与えてやらなければならないことを示している。一番きわどい問題はおそらく非漢字系の学習者には漢字の点線の集合が既存知識に関連づけられないことだろう。既存知識は新しい情報や知識を得るための手掛かりとなるものである。学習心理学によると新知識の習得は主に既存知識を利用しながら行われると言われている。

教師は可能な限り、学習者が既存知識を利用しやすいようにしてやらなければならない。目的に合った予備練習を行わない場合、漢字を記憶したり類似の漢字を区別したりすることはむずかしい。なぜなら、覚えなければならない要素が多すぎるからである。特に、形の上からも点線の複雑さを関係づける判然とした論理が全くないからである。漢字に知識のない者は形と音、意味を関連づける明白な論理さえも持っていない。漢字を母語とする者や上級レベルの学習者には、形声文字(多くの漢字はそうであるが)の形、音、意味の関係が漢字の理解を比較的容易にするかぎとなっている。漢字は学習者にとって複雑な形に、恣意的に配置された点線の偶然の集合である。このような条件の下での漢字の学習過程は非常に骨の折れる、非合理的な作業になる。“graphic memory”を発達させることは漢字学習の正しいアプローチを可能にしアルファベット体系と漢字体系の差異からくる習得のむずかしさを克服するのにかなり役に立つであろう。

漢字を視覚的に区別する能力、漢字の構成要素を分解したり組み合わせたりする能力、形声文字を構成する意符や音符を識別する能力、構成要素を利用して漢字を再生する能力などを発達させる目的の特別な練習によってこの“graphic memory”を得ることができる。要するに、学生に漢字の「見方」を教える練習である。

実際、視るという行為は基本的には受動的ではない。反対に、視るものが全体の特徴や最も印象的な部分、又は、最も知られた部分に基づいて視覚を組織する活動的な行為なのである。事実、学習者は読めるが正確に書けないことはよくある。これは、つまり、漢字の認知はおおよそのレベルで行われ、正しい認知図式を持っていないものはしばしば必要なかぎとなる要素を見つけることができないのである。

1-3-2.

以上のことから漢字の指導はまず学習者に漢字の「形の構造」を理解させる練習から始めるのがよいと思われる。次に複雑な文字体系としての漢字の識別能力を発達させるための入門期における余すところのある練習例をいくつか提案する。

注意： 予め、簡単な漢字の紹介(六書、構成部分、部首、音符、意符、漢字辞典の使い方、など)が必要とされる。

A. 全体認識

練習 1:

Choose from the list below the kanji that appear in the text.

Text:

日本の花はきれいです。一番最初に咲く花は梅で、その次に桜が咲きます。桜の花の満開は有名です。三月から四月にかけて桜前線は南から北へ上がって行きます。開花は北海道が一番遅いです。

List: 梅—桜—東—葵—毎—開—桜—閑—道—桜—導—追—東—閑—凍—海—迫。

:

練習 2:

Identify the same kanji from each list.

1. 比

a. 北, b. 止, c. 此, d. 址, e. 比, f. 化, g. 正

2. 牛

a. 午, b. 牛, c. 年, d. 干, e. 千, f. 犇, g. 下

3. 怜

a. 冷, b. 令, c. 苓, d. 伶, e. 怜, f. 玲, g. 鈴

4. 議

a. 義, b. 儀, c. 巖, d. 義, e. 磯, f. 議, g. 穢

5. 敷

a. 縷, b. 縲, c. 縁, d. 總, e. 敷, f. 敷, g. 縄

B. 分解練習

練習 1:

Divide the following kanji in two parts.

Example: 細: 糸+田

鎮—習—梅—語—張—答—悲—晴—現—仕

練習 2:

Choose among the following kanji those that have as component parts: 日, 白, 石.

1. 音 2. 訓 3. 都 4. 稿 5. 確 6. 的 7. 旅

.....

練習 3:

To which decomposed series do the kanji in the list belong?

Example:

0. 田+糸=累

1. 士+心=.....

2. 安+木=.....

3. 耳+口+王=.....
4. 竹+木+目=.....
5. 大+隹+田=.....
6. 言+刃+心=.....

List: a. 聖, b. 志, c. 箱, d. 奮, e. 案, f. 認, g. 累

練習 4:

Write the kanji resulting from the subtraction of a component part.

Example:

0. 峙-山=寺
1. 習-白=.....
2. 国-口=.....
3. 思-心=.....
4. 界-介=.....
5. 霜-雨=.....

練習 5:

Write the kanji resulting from the combination of parts, paying attention to the dislocation of the parts.

(left) + (right)

1. 言+

┌	吾=.....
├	壳=.....
└	川=.....
└	方=.....

(below) + (up)

2. 貝+

┌	工=.....
├	今=.....
└	分=.....
└	代=.....

(up) + (below)

3. 雨+

┌	云=.....
├	田=.....
└	務=.....
└	路=.....

(right) (left)

4. 父+

┌	工=.....
├	正=.....
└	古=.....
└	交=.....

練習 6:

Write the combination of the parts that give one of the kanji in the list below:

1. 穴+

┌	力?
├	木?
└	工?
└	心?

 =.....

2. 今+

┌	水?
├	心?
└	目?
└	田?

 =.....

3. 言 + $\left\{ \begin{array}{l} \text{手?} \\ \text{女?} \\ \text{十?} \\ \text{火?} \end{array} \right. = \dots\dots$

4. 女 + $\left\{ \begin{array}{l} \text{手?} \\ \text{水?} \\ \text{少?} \\ \text{西?} \end{array} \right. = \dots\dots$

List: 念, 穴, 妙, 計.

練習 7:

Look up in a kanji dictionary under the radical “人” the possible combinations of the following kanji+“人” and write them.

犬—会—白—主—史—本—来—知—言—屋.

+人

=

C. 要素認識

練習 1:

Choose the common components of the following kanji.

Example:

0. 奕—輿—太—奄.

: 大

1. 勉—努—務—勤—募.

:

2. 謀—諮—誓—擔—彎.

:

3. 聽—聞—聾.

:

4. 念—恥—愛—感.

:

5. 岩—岫—島—嶽.

:

6. 守—寺—導—謝.

:

7. 炒—烈—炭—炙—焚.

:

練習 2:

Which parts form the following kanji?

Example: 侍: j+f

1. 明, 2. 時, 3. 星, 4. 加, 5. 吉, 6. 含, 7. 念, 8. 志.

Parts: a. 月, b. 口, c. 力, d. 心, e. 士, f. 寺, g. 日, h. 今, i. 生, j. 人.

1. ..., 2. ..., 3. ..., 4. ..., 5. ..., 6. ..., 7. ..., 8.

練習 3:

Changing the position of the component parts form new kanji:

1. 犬 =
2. 含 =
3. 且 =
4. 百 =
5. 氷 =

練習 4:

Choose from each list the kanji that does not belong.

Example:

0. 技—扣—功—抗: 功
1. 梅—桜—料—柏
2. 鮎—蛤—腹—鯛
3. 罵—雪—雲—電
4. 都—影—郊—郵
5. 虫—忠—念—愁

練習 5:

Decompose the following kanji, placing the component parts in the patterns above.

Example:

<table border="1" style="width: 100%; height: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 2px;">女</td> <td style="width: 50%; padding: 2px;">又</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 2px;">心</td> </tr> </table>	女	又	心		<table border="1" style="width: 100%; height: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> </table>					<table border="1" style="width: 100%; height: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> </table>					<table border="1" style="width: 100%; height: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> </table>					<table border="1" style="width: 100%; height: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> </table>				
女	又																							
心																								
怒	語	頰	架	議																				

<table border="1" style="width: 100%; height: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> </table>					<table border="1" style="width: 100%; height: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> </table>					<table border="1" style="width: 100%; height: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> </table>					<table border="1" style="width: 100%; height: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> </table>					<table border="1" style="width: 100%; height: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> </table>				
散	頻	鏡	腺	煙																				

練習 6:

Choose between a. and b. the 音符 (the part which marks the pronunciation) of the following kanji.

Example:

0. 偉—圍—幃=イ
音符: a. 人, b. 韋. (answer: b.)

1. 固一姑一胡=コ
音符： a. 古, b. 女.
2. 伽一茄一架=カ
音符： a. ++, b. 加.
3. 格一客一輅=カク
音符： a. 木, b. 各.
4. 銑一洗一筭=セン
音符： a. 金, b. 先.
5. 脹一張一蓑=チョウ
音符： a. 長, b. 引.
6. 棺一館一菅=カン
音符： a. 木, b. 官.

D. パターンとしての漢字認識

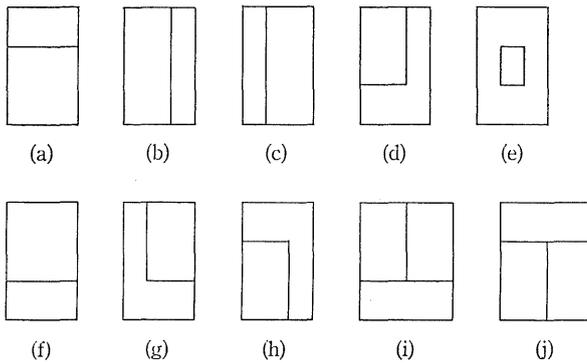
練習 1:

Choose the pattern in which the following kanji can be decomposed.

Example: 仙: c.

1. 海 2. 花 3. 道 4. 型 5. 森 6. 盤 7. 念 8. 明.

Patterns:



練習 2:

Choose among the following kanji those that cannot be decomposed.

木, 相, 手, 万, 水, 火, 信, 世, 中, 馬, 介.

練習 3:

Identify the same radical under different forms in the following lists of kanji:

Example: 社一宗一票

: 示

1. 忘一快一忝

- ：
2. 扌—承—拳—
：
3. 永—求—汎—泉—泰
：
4. 災—烜—点—犖—
：

練習 4:

Which is the radical of the following kanji?

Example:

0. 万—三—上—下
a. 二, b. 一, c. |. (answer: b)
1. 池—決—泉—泰
a. 手, b. 水, c. 弓.
2. 灯—烈—無—焚
a. 小, b. 寸, c. 火.
3. 犯—状—狷
a. 犬, b. 邑, c. 米.
4. 神—宗—祭—福
a. 衣, b. 示, c. 心.

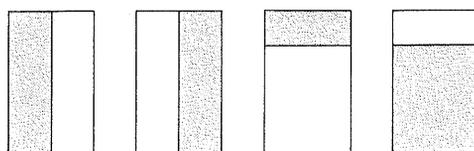
練習 5:

Which of the patterns listed below correspond to the radical of kanji 1., 2., 3., 4., 5.?

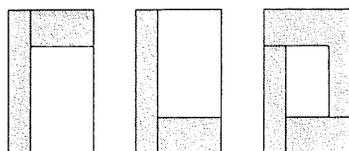
Example:

0. 花=c.
1. 道=..., 2. 笑=..., 3. 決=..., 4. 怒=..., 5. 病=...

Patterns:



(a) (b) (c) (d)



(e) (f) (g)

参 考 文 献

- 井上道夫, 斎藤洋典, 野村幸正 (1984) 「漢字の特性に関する心理学的研究」, 『国語学論説資料』, Part 5, n. 21, 353-361, 論説資料保存会.
- 大久保忠利 (1986) 『漢字と教育漢字, 漢字教育はどうあるべきか』, 一向社.
- 海保博之, 野村幸政 (1983) 『漢字情報処理の心理学』, 教育出版.
- 海保博之 (1984) 『漢字を科学する』, 有斐閣選書, 有斐閣.
- 海保博之 (1990) 「外国人の漢字学習の認知, 心理学的問題」, 『日本語学』, 1991年11月, vol. 9, 65-72, 明治書院.
- 樺島忠夫 (1979) 『日本の文字』, 岩波新書, 岩波書店.
- 滑川道夫, 吉田澄夫, 倉沢栄吉, 林 大 (1976) 『漢字』, 信光社.
- 橋本萬太郎, 鈴木孝夫, 山田尚勇編著 (1987) 『漢字民族の決断. 漢字の未来にむけて』, 大修館書店.
- 福沢修助 (1976) 『漢字の独自学習, その教育心理学的研究』, 学東社.
- 松尾尚喜 (1987) 「漢字の情報処理に関する一研究」, 国語学論説資料, Part 5, n. 24, 361-366, 論説資料保存会.
- 水谷静夫(編集者) (1987) 『文字・表記と語構成』, 朝倉書店.
- 渡辺 敏 (1978) 『認識とパタン』, 岩波新書, 岩波書店.
- 渡辺 茂 (1976) 『漢字と図形』, 日本放送出版協会.
- Aaron, P. G. and Joshi R. Malatesha, eds. 1987. *Reading and writing disorders in different orthographic systems*. Dordrecht, The Netherlands: Kluwer Academic Publishers.
- Chao Yuen Ren. 1976. *Chinese as a symbolic system: aspects of Chinese sociolinguistics*. Stanford: Stanford University Press.
- Mizutani Shizuo, ed. 1989. Japanese quantitative linguistics. *Quantitative linguistics*, vol. 39. Bochum: Studienverlag Dr. N. Brockmeyer.
- Paradis, M., H. Hagiwara, and N. Hildebrandt. 1985. *Neurolinguistic aspects of the Japanese writing system*. Orlando, Florida: Academic Press Inc.
- Wang, Jason Chia-sheng. 1983. *Toward a generative grammar of Chinese characters: structure and stroke order*. Ph.D. diss., University of Wisconsin-Madison.